

## 再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
担当課長名：前佛 和秀

事業名：一般国道17号 <small>あげおどろ</small> 上尾道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 関東地方整備局
起終点：自：埼玉県さいたま市西区宮前町 至：埼玉県桶川市川田谷	延長	11.0km
<b>事業概要</b> 一般国道17号は、東京都中央区を起点として、さいたま市、前橋市等の主要都市を通過し、新潟市に至る延長約370kmの主要幹線道路である。 上尾道路は、一般国道17号の交通混雑緩和と圏央道へのアクセス向上を目的とした延長20.1kmのバイパス事業で、当該事業区間は圏央道以南の延長11.0kmの区間である。		
H2年度事業化	S44年度都市計画決定 (H1年度変更)	H9年度用地着手
H14年度工事着手		
全体事業費	約1,211億円	事業進捗率 約96%
	(令和2年3月末時点)	供用済延長 11.0km(暫定)
計画交通量	38,100~54,400台/日	
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 1.4 (残事業) 2.6 (4.5)	総費用： (残事業)/(事業全体) 564/2,489億円 (事業費：494/2,356億円) (維持管理費：70/133億円)
	総便益： (残事業)/(事業全体) 1,451/3,445億円 (走行時間短縮便益：1,234/3,108億円) (走行経費減少便益：172/286億円) (交通事故減少便益：45/51億円)	基準年： 令和2年
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】交通量：B/C=1.2~1.5(交通量±10%) 事業費：B/C=1.4~1.4(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.3~1.5(事業期間±20%)		
【残事業】交通量：B/C=2.3~2.8(交通量±10%) 事業費：B/C=2.4~2.8(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.3~2.8(事業期間±20%)		
<b>事業の効果等</b> (1)交通混雑の緩和、円滑化 ・上尾道路整備前の国道17号並行現道(宮前IC~箕田交差点)の損失時間は、287.5千人時間/年・km。 ・I期・II期区間整備後は、損失時間が146.9千人時間/年・kmとなり約49%減少。 ・上尾道路の全線4車線整備により、交通が転換し、国道17号現道の交通渋滞の緩和が見込まれる。 (2)周辺道路の交通量の減少 ・平成28年4月に、上尾市小敷谷~桶川市川田谷間の4.7kmが開通し、11.0km全線開通(一部2/4車線) ・上尾道路の全線開通により、並行する生活道路の交通量が約27%減少し、うち大型車交通量が約45%減少。 (3)圏央道へのアクセス向上 ・上尾道路の全線開通により、国道16号と接続する宮前ICから圏央道の桶川北本ICへの所要時間が35分から20分に大幅に短縮し、圏央道へのアクセスが向上。		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> ・埼玉県知事からの意見 上尾道路は、首都圏と上越地方を結ぶ国土の大動脈である国道17号の一部であり、圏央道へのアクセス向上や国道17号現道の慢性的な渋滞緩和を図る上で非常に重要な道路です。 平成28年4月に上尾市から桶川市間が一部暫定区間を含むものの全線開通し、さいたま市方面から圏央道桶川北本ICへのアクセス性が向上しました。 引き続き、全線4車線化に向けて、江川地区の貴重な湿地環境の保全対策を実施しつつ、コスト縮減に十分留意し、早期完成に努めていただくようお願いします。 ・さいたま市長からの意見 国道17号上尾道路につきましては、慢性化している国道17号現道周辺の交通混雑の緩和や沿道環境の改善に寄与し、また地域間の道路網を担い、都市の骨格をなす幹線道路として認識しているところです。 国道17号上尾道路の全線開通により、さいたま市から圏央道へのアクセスが向上され、より一層の経済発展に大きく貢献されるものと期待しております。 国道17号上尾道路については、さらなる渋滞の緩和と利便性の向上のため、全線4車線化に向けて引き続き整備継続頂けますようお願い申し上げます。		
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 事業の継続を了承する。		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> ・平成22年3月に圏央道(川島IC~桶川北本IC間)5.7km、平成23年5月に圏央道(白岡菖蒲IC~久喜白岡JCT間)3.3km、平成27年10月に圏央道(桶川北本IC~白岡菖蒲IC間)10.8kmが4/4車線で開通。 ・桶川都市計画道路川越栗橋線(川田谷工区)は、平成21年7月に開通。		

